

Q. 保育や介護の現場は人手不足である。新年度予算での対応は考えているのか

A. 新年度予算で臨時保育士の処遇改善や介護士の職場環境の改善を図りたい



ここを聞きました

- 「高梁市まち・ひと・しごと総合戦略」の基本目標に掲げている「市内で働き続けることのできる雇用環境を創出する」の進捗状況と新年度予算について
- 自主防災組織について
- 建設・農林事業の要望書の申請制度について

「高梁市まち・ひと・しごと総合戦略」について

三村 現在の市内の求人状況はどうか。

市長 有効求人倍率は2・38倍と年々上昇している。

三村 市内で働く所が無いという声も多いがなぜか。

市長 専門的、技術的な求人は多いが一般事務の求人は少ない。職種によって非常に大きな差があるからではないか。

三村 保育や介護の現場は人手不足である。新年度予算での対応は考えているのか。

市長 新年度予算で臨時保育士の処遇改善や介護士の職場環境の改善を図りたい。

三村 定住促進のために新年度予算で工夫しているところはどこか。

市長 今年度は高校生を対象に市内企業バスツアーの開催や、県立高校の1年生を対象にキャリア教育を行った。

来年度は、新たに産業振興財団と連携し、「プロフェッショナル人材確保事業」や「エキスパート人材確保事業」に取り組む。

建設・農林事業の要望書の申請制度について

三村 住民から建設課や農林課に改良や改善の要望書が提出されているが何年も回答がされていないものがあるがなぜか。

産業経済部長 予算確保等が困難な事業や実施見込みが立たない事業などで、要望者に連絡できてないものがあるので順次連絡を行う。今後は、状況について定期的にチェックするよう改善したい。

Q. 参加定員 1,000 名のヒルクライムチャレンジシリーズ高梁吹屋ふるさと村大会だが、定員数を増やせないのか

A. 今年度は、1,100 名に見直して開催する予定である



ここを聞きました

- 公用車へのドライブレコーダー導入について
- 備中松山城の観光について
- 保存修理中の旧吹屋小学校校舎について
- ヒルクライムチャレンジシリーズ高梁吹屋ふるさと村大会について

公用車へのドライブレコーダー導入について

森 ドライブレコーダーは、職員の安全運転につながる。さらに公用車は、市内全域を走行していて防犯カメラの役割も果たす。導入すべきではないか。

総務部長 公用車への設置は職員の安全意識の向上や、事故発生時の対応、事故分析による対策など、効果は大きいと認識している。

しかし、経費面や映像の管理運用など個人情報保護の立場からクリアしなければならぬ課題もあるので直ちに導入は難しい。

保存修理中の旧吹屋小学校校舎について

森 「学びの拠点」として再生しているが、具体的な活用は考えているのか。

教育次長 現在、博物館と資料館の展示内容を詰めている段階である。吉岡銅山、ベンガラ、塩田瓦、学校の歴史を展示の柱にしていきたいと考える。

また、観光資源としての価値を高める活用も検討している。

森 旧吹屋小学校本館は建築技師江川三郎八氏の設計によるものである。校舎の活用とともに高名な江川氏を顕彰し、観光面での活用を考えられないか。

教育次長 修理完成後には、江川式建築の展示コーナーを設けて積極的に情報発信していく。

※江川三郎八・・・真庭市にある旧遷喬尋常小学校（国指定重要文化財）などを手がけた建築技師

Q. 市職員の土木技師職員不足が慢性化している。今後、解消するため高校生枠を設けてはどうか

A. 専門職全般に不足している。県内の高校や大学に求人の案内を出しおり、高校生枠も今年度から行っている



ここを聞きました

- 福祉政策について
- 農業振興について
- 行財政改革について

行財政改革について

倉野 本市の行財政改革では市民の皆さんにも一定の理解をいただかなければならないと考えられる。また、経費削減ももちろんである。そんな中で、職員の出張旅費について一定料金の精算ではなく、今後は実費精算すべきと考えらるがどうか。

総務部長 出張時の宿泊料については、国家公務員等の旅費に関する法律を準用し、高梁市の旅費に関する条例によって行っている。宿泊施設に支払うほかに雑費も含んでおり、事務的にも煩雑が想定されることから現状での運用で理解いただきたい。

倉野 改革の余地なしと理解しているのか。

総務部長 土木技術職員に限らず専門職全般に不足であり、本年度から県内の高校や大学にも求人の案内を出している。高校生枠についても今年度から行っており、今後も努力していきたい。

Q. 高梁市医療計画をどのように市民に広報していくのか

A. ホームページや広報紙のほか、市民向けのわかりやすいリーフレットを作成しようと考えている



ここを聞きました

- 主な死因別対応と検診について
- 救急体制の現状と課題について
- 診察時間と予約診療について
- 市内医療従事者の教育、スキルアップ体制について

高梁市が検討している医療計画について

伊藤 市内医療従事者の高齢化と人手不足について、市としても対策が必要ではないか。

政策監 計画を策定する中で、一つの医療機関だけでなく、地域全体でこれからの市の医療の方向性に合意していただき、どういう形で大学の医局などに要請していくことが可能なか、将来的には議論が必要と考える。

伊藤 吉備国際大学保健医療福祉学部との連携において看護師等の確保ができないか。

政策監 市と学園の連絡会議で市からは、奨学金の案内とあわせて学生に市内での就職をお願いし、学園からは毎年安定的に新卒者を採用する仕組みができないか提案を受けている。

伊藤 医療機関に通院することが困難な市民に対して、どのような医療を提供するのか。

政策監 どこに住んでいても適切な医療が受けられるよう、公共交通等通院支援をどうしていくのか、また在宅医療の提供体制をどう整えていくのか今後議論を深めていきたい。

伊藤 市民に切望されている小児救急体制を構築できないか。

政策監 医療機関と連携して、例えば、内科医が小児の救急で対応できないかという議論を持ちかけてみたり、夜間の対応で何かできないかという話し合いを進めてみたい。